

2020年8月27日

報道関係各位

三菱地所株式会社

DX・イノベーション促進企業が集結、フロア、ビル、まちを触媒に化学反応 新東京ビルに「Shin Tokyo 4TH」オープン ～現代アートを導入、ワーカーのコミュニケーションと気づきを促進～

三菱地所株式会社は、大手町・丸の内・有楽町エリアにおける2020年以降のまちづくりを「丸の内NEXTステージ」と位置付け、イノベーション創発とデジタル基盤強化を通じ、個人のクオリティオブライフ向上と社会的課題の発見・解決を生み出す仕掛けづくりを推進しております。このほど、その重点エリアの一つである「有楽町」において、イノベーション拠点「Shin Tokyo 4TH」をオープンしました。

当拠点にはDXやオープンイノベーションを促進する企業を誘致、入居企業自らが意欲的にアクションを仕掛け、フロアやビル、まちを触媒として化学反応を起こし、社会に対して新たな価値を生み出していきます。また、当社は、有楽町再構築の大きな柱の一つに文化・芸術を掲げ、様々なアートプロジェクトを進行中ですが、当拠点にも現代アートを導入することで、「アート×オフィス」が融合した新たなオフィスショーケースを目指していきます。

「Shin Tokyo 4TH」は、JR・東京メトロ丸ノ内線「東京」駅直結、JR「有楽町」駅徒歩3分の「新東京ビル」（東京都千代田区丸の内3-3-1）4階のフロアリニューアルにより誕生しました。当拠点を出会いや活気があふれる「Market（市場）」と位置づけ、カフェラウンジやシェアキッチン、スタジオといった機能をワーカーが長い廊下を回遊して利用することで行動範囲を広げ、場所・時間・情報の共有や交流を自然発生的に生み出す空間を目指します。

最大の特徴は、入居企業（9社）です。“丸の内産ITエンジニア”を育てるプログラミングスクール「TECH CAMP」を運営する株式会社divや、自動運転社会を見据えたMaaS事業を展開するMONET Technologies株式会社、新規事業の代理出産モデルを手掛ける株式会社ボーンレックスなど、入居企業自らが社会のDX化やデジタル化、オープンイノベーションを促進、積極的にイベントや情報発信を実施するなど交流や社会への働きかけを行っていきます。



Nacása & Partners Inc.

カフェラウンジ「Join 4ths」

■入居企業（順不同）


NTT DATA
 axis


CROSS
 Business Producers


NEXs Tokyo


BORNREX

【イノベーション促進企業】

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	ビジネス創出や業務上の課題解決をテクノロジー活用によって導出するコンサルティング
CROSS Business Producers 株式会社	「温度ある経済の環を創る」をテーマに事業創造を支援
株式会社ボーンレックス	起業家や大企業内新規事業創出の支援を通して「自分の人生を生きる」を応援する会社
「NEXs Tokyo」	東京都が運営する国内外の広域展開に挑むスタートアップの交流拠点

【DX・デジタル促進企業】

AWL 株式会社	オフィス・店舗・ホテルなど向けのAIカメラソリューションの開発・提供
DEFIDE inc.	新商品・サービス創出型DXのPoC/MVP/PMFサービス事業
株式会社div	プロのエンジニアになれるプログラミングスクール「テックキャンプ プログラミング教養・エンジニア転職・デザイナー転職」を展開
MONET Technologies 株式会社	自動運転社会を見据えたMaaS事業(オンデマンドモビリティサービス、データ解析サービス等)を展開
The Qt Company	グラフィカル ユーザー インターフェイス開発ツール「Qt」の開発、販売、トレーニングの提供等

■リニューアルのコンセプトと交流を生む空間づくり

リニューアルのコンセプトは「Market（市場）」。出会いや活気があふれ、今後の有楽町をこの新東京ビル4階から盛り上げていきたいという思いを込めました。

自然発生的な交流や情報交換の場となるよう、「Market（市場）」の中心に「Join 4ths」というカフェラウンジ、シェアキッチン、スタジオなどの機能を配置し、また、回廊型の長い廊下を「辻」に見立て、歩いて楽しい空間として演出することで、ワーカーのフロア内での回遊と交流を促し、場所や時間、情報の共有を促進。専有部と共用部の境界を感じさせない自由な空気感や場所を限定しない働き方を提案します。

なお、リニューアルにあたり、「一丁^{ロンドン}倫敦」と言われたかつての丸の内エリアを想起させるブリックタイルを回廊の壁面に用いたほか、デジタル、イノベーション創発企業の嗜好に合うよう、専有部については天井高 3m を確保し、ライティングレール照明などのオフィススケルトン仕様といたしました。

カフェラウンジ

大手町ビル内のイノベーション施設「Inspired.Lab.」のカフェも手掛けるメディアサーフコミュニケーションズ(株)グループのストックホルムロースト(株)が運営。「コミュカ」の高い接客・営業スタイルが特徴で、ラウンジ内のコミュニティ促進役を担う。パーティーやケータリングも対応可能。

シェアキッチン

テナント企業は自由に利用でき、また予約することで貸切利用も可能。ランチイベントや社内懇親会など食を通じたコミュニケーションに。

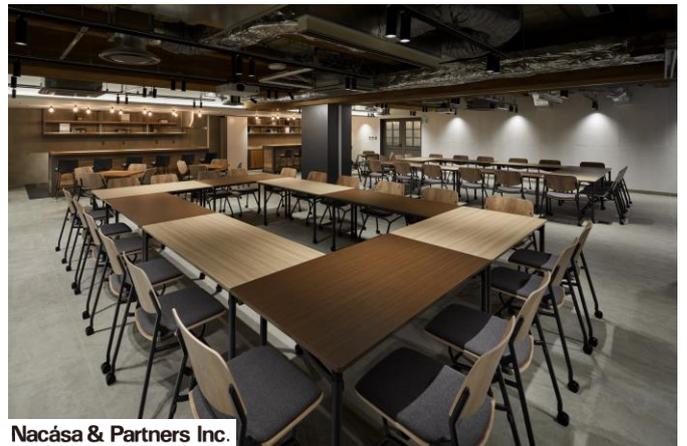
スタジオ

イベントや勉強会、セミナーなど外部から人を呼び込むイベントスペース。予約がないときは、通常時フリーなワークスペースや打ち合わせにも活用。



Nacása & Partners Inc.

カフェラウンジ「Join 4ths」



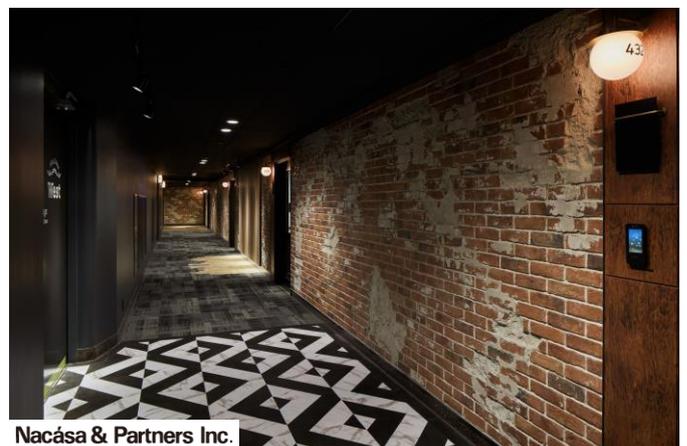
Nacása & Partners Inc.

シェアキッチン付多目的スペース「MeetUp スペース」



Nacása & Partners Inc.

エレベーターホールを改修した「CENTER SQUARE」



Nacása & Partners Inc.

「辻」に見立てた廊下

■「アート」×「ビジネス」の融和

アート業界のベンチャー企業である ArtTechnologies 株式会社と協業し、同社がもつアーティストネットワーク、キュレーション力により、これまでアートに馴染みのなかったオフィスフロアに現代アートを導入することで、画一的なオフィスデザインとは異なる、他にはない独創的・刺激的な空間を演出します。導入するアートはアーティストの制作過程を見せるライブペイントで、導入後はアートサブスクリプション方式でアートを定期的に入れ替えます。直接業務に関連しないアートを通じて、就業者同士のコミュニケーションを誘発、非連続な気付きを促します。本取り組みが当社が目指す文化芸術・MICE を核としたまちづくりのショーケース“として、変わっていく有楽町を牽引する象徴的な施設となることを目指しております。

■「Shin Tokyo 4TH」概要

所在地：東京都千代田区丸の内 3-3-1 新東京ビル 4 階

面積：6,367.00 m² (1,926.02 坪)

※うち、共有部は 552.30 m²

共有部：カフェラウンジ、キッチン、スタジオ

区画：最少 1 スパン約 35 坪～

テナント数：9 (2020 年 8 月 27 日時点)

開業時期：2020 年 8 月

■ 有楽町エリア再構築に向けた取り組み

当社は、有楽町エリア再構築に向けた先導プロジェクトとして 2019 年 12 月より始動した有楽町「^{マイクロ}Micro ^{スターズ}STARs ^{開発}Dev.」を皮切りに、ソフト・ハード両面からの「新しいまちづくり」を進めています。有楽町エリアにおいて、既存のポートフォリオも活用しながら、クリエイティブな人材が集まり、活躍する場づくり・仕組みづくりへの取り組みを加速させることで、2020 年代以降の有楽町エリア再構築に繋げてまいります。

- ・2019 年 12 月 有楽町エリア再構築に向けた先導プロジェクト有楽町「Micro STARs Dev.」始動
- ・2019 年 12 月 様々な人・アイデア・文化・食に出逢える多機能型市場「有楽町『micro FOOD & IDEA MARKET』」（有楽町ビル 1 階）開業。
- ・2020 年 2 月 個人単位のアイデアを形にするワーキングコミュニティ「有楽町『SAAI』Wonder Working Community」（新有楽町ビル 10 階）開業。
- ・2020 年 6 月 新しい街のテーマソング“まちうた”を創るニッポン放送との共同企画「有楽町うたづくり計画」始動。
- ・2020 年 7 月 現代アートギャラリー「CADAN 有楽町」（有楽町ビル 1 階）開業。工事中仮囲いを活用したアートプロジェクト「有楽町アートサイト」の実施など、アートを通じた街づくりを加速。
- ・2020 年 8 月 日本初上陸の RaaS 型店舗「b8ta Tokyo – Yurakucho」（有楽町電気ビル 1 階）開業。
※「b8ta japan」へ当社が出資。
- ・2020 年 8 月 街ぐるみで楽しめるお笑い常設劇場「よしもと有楽町シアター」（有楽町ビル 2 階）開業。
- ・2020 年 8 月 店舗入れ替え期間をアーティストの表現の場に都市の”すき間”を活用するアートプロジェクト「ソノ アイダ # 有楽町」（国際ビル 1 階）
- ・2020 年 8 月 DX・イノベーション促進企業が集結、フロア、ビル、まちを触媒に化学反応「Shin Tokyo 4TH」オープン

■有楽町エリア再構築と有楽町×アートの取り組みについて

「有楽町エリア再構築」に向けた先導プロジェクトである有楽町「^{マイクロ}Micro ^{スターズ}STARs ^{開発}Dev.」では、人・アイデア・コト・モノとの出逢いを通じ、人々の感性が揺さぶられ更に磨かれるまちとなること、「次の時代を担うスターが生まれる“仕組み”を有楽町で作り上げる」ことを目指して活動しています。ポストコロナの時代、街に求められる価値は大きく変わっていきませんが、アートを通じた街づくりを進めることで、ビジネスセンター

であるこのエリアに多様性を受け入れながら、新しい才能を発掘し、活躍の場を創出し、訪れる人を触発するクリエイティブな街としての価値を再構築してまいります。

関連リリース：“アート”を通じて街の価値を再構築 有楽町「Micro STARS Dev.」アート各企画が開始

https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec200709_yurakucho_art.pdf

店舗入れ替え期間をアーティストの表現の場に都市の”すき間”を活用するアートプロジェクト「ソノ アイダ #有楽町」始動

https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec200818_sonoaidayurakucho.pdf

■Art Technologies 株式会社について

2019 年設立。「経済と芸術文化の接点を増やす」ことを目的とし、アーティストの作品制作支援やプロデュースを手がける。主に企業向けのアート活動支援や、販売、レンタル、壁画制作などの事業を広く展開している。

所在地：東京都港区赤坂 1-3-6 赤坂グレースビル 6 階

資本金：2 億 7900 万円

代表：代表取締役 居松篤彦氏

事業内容：アート販売・企業向けサブスクリプション事業、アーティスト支援事業、オフィスコーディネート事業、個人向けアートコンサルティング事業



(ご参考)

■丸の内 NEXT ステージについて

大手町・丸の内・有楽町エリア（以下、丸の内エリア）における 2020 年以降のまちづくりを「丸の内 NEXT ステージ」と位置付け、イノベーション創発とデジタル基盤強化を通じ、個人のクオリティオブライフ向上と社会的課題の発見・解決を生み出すまちづくりを推進。有楽町エリア及び常盤橋エリアを重点的に整備し、2030 年までに約 6,000～7,000 億円を建替え及びソフト整備に投資する予定です。

テーマ：丸の内 Re デザイン 目指す姿：“人・企業が集まり交わることで新たな「価値」を生み出す舞台”（「価値」：個人の QOL 向上と社会的課題の発見・解決）

施策：・イノベーションが生まれ続けるエコシステムの形成に、まち全体で取り組む。
・ハード面の基盤整備に加え、デジタル基盤を強化する。

関連リリース：https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec200124_marunouchinext.pdf

以上

○丸の内エリアのまちづくりコンセプト：「丸の内 Re デザイン」



丸の内
Re デザイン

三菱地所は、2020 年以降の丸の内エリア(大手町・丸の内・有楽町)におけるまちづくりを「丸の内 NEXT ステージ*」と位置付け、“人・企業が集まり交わることで新たな「価値」を生み出す舞台”を創造していきます。「丸の内 Re デザイン」はその実現に向け、まちづくりのあり方から変えていくコンセプトワードです。

※始動リリース：https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec200124_marunouchinext.pdf

三菱地所が考えるポスト・コロナ戦略の全体像については、2020年7月16日付の下記リリース（抜粋）のとおりですが、本リリースの取組み「Shin Tokyo 4TH」は次頁赤枠に該当いたします。

ポスト・コロナ時代のまちづくりを加速

～丸の内は「就業者 28 万人×8 時間」から、「多様な就業者 100 万人×最適な時間、交流する」まちへ～
～センターオフィス以外にも多様なワークスタイルに対応し、トータルにサポート～

三菱地所は、2020 年代における丸の内エリア（大手町・丸の内・有楽町地区）のまちづくりを「丸の内 NEXT ステージ」と位置づけ、『丸の内 Re デザイン＝人・企業が集まり交わることで新たな「価値」を生み出す舞台づくり』をスタートしています。

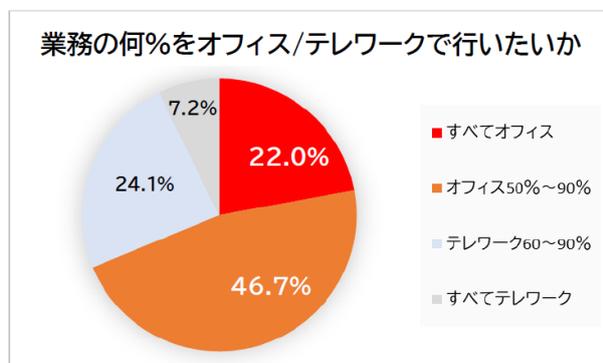
今般、東京都内に勤務する一都三県在住の約 15,000 人のオフィスワーカーにアンケートを実施、アンケートで得られた個人や企業の意識変化を踏まえながら、ポスト・コロナ時代の新しいまちづくりやワークスタイル像を抽出、今後の東京・日本をリードするまちづくり・ワークスタイルを提案いたします。

1. ポスト・コロナ時代のまちづくり

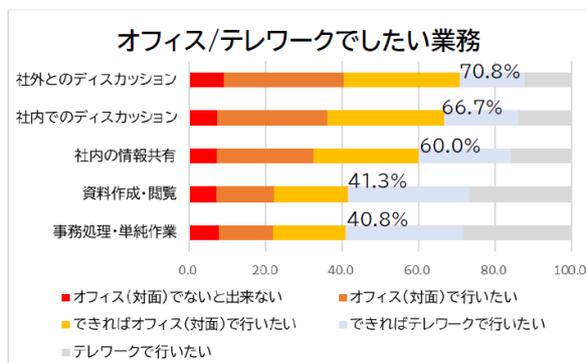
東京・丸の内エリアを『就業者 28 万人が毎日 8 時間×週 5 日過ごす場』から、『多様な就業者 100 万人が最適な時間に集まり、交流して価値を生み出す舞台』に変えていきます。

【15,000 人就業者アンケートから予測されるポスト・コロナのワークスタイル・オフィスニーズ】

- ① 業務内容に応じ、オフィスとテレワーク(オンライン)を柔軟に使い分ける
 - ② センターオフィス(1stプレイス)、自宅(2ndプレイス)、3rdプレイスを柔軟に選択
 - ③ フェイストゥフェイスでしか得られない価値(創造性・偶発性・チームビルディング)をオフィスに求める
- ⇒企業では、こうした変化に対応するセンターオフィスの戦略的な選択、変革の動きが予想されます。



約 7 割が「業務の 50%以上をオフィスで行いたい」



約 7 割が「ディスカッションはオフィスで行いたい」

- ・調査方法 : インターネット調査
- ・調査対象 : 東京都に勤務する、一都三県（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）在住のオフィスワーカー
※工場・店舗勤務者や、パート・アルバイトは除外
- ・有効回答数 : 14,522 サンプル（男性 64.8%、女性 35.2%）
- ・調査期間 : 2020 年 6 月 19 日～6 月 23 日
- ・調査委託先 : 株式会社マクロミル

●まちづくりの方向性

- ・場所や時間を柔軟に選択するワークスタイルが進むなか、これからの「センターオフィス」は、イノベーションや価値創造を生み、人・モノ・情報・時間を共有する“ハブ拠点”としての求心力を高める等、一層の高度化が求められます。
- ・当社はワークプレイスのプロとして、企業のオフィス変革をサポートするとともに、丸の内エリアのまちづくりで培ってきた、企業・人材の集積と交流機会、“働く”に留まらない来街目的の多様化、安全・安心・清潔・快適の追求に加え、フレキシブルに利用できる空間づくりを進め、ワークスタイルの多様化に応じていきます。
- ・交流拠点を充実させるほか、空間を複数の人や企業でシェアする、時間によって用途を変えるなど、まちの使い方を高度化・複層化し、コロナ禍以前よりも更に多様な交流と価値創造を目指します。

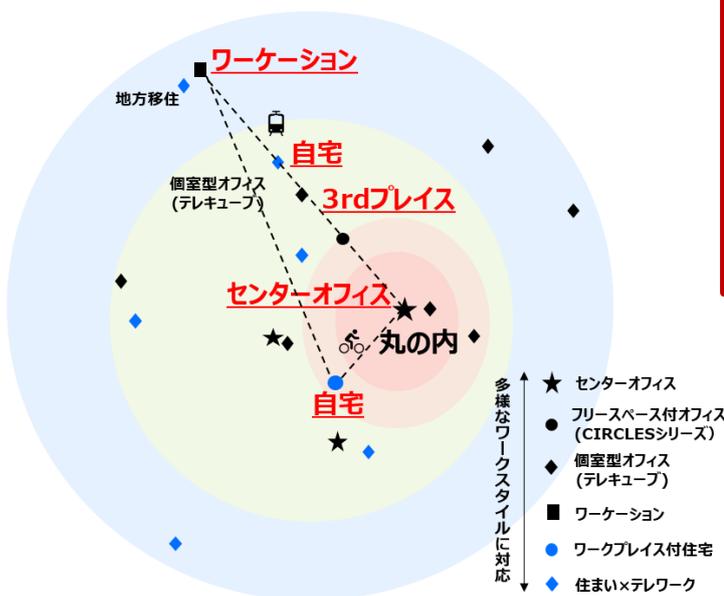
●具体的な施策

- ① フレキシブルなワークスタイルに対応する商品・サービスの拡充
 ~企業のオフィス変革とともに、フレキシブルにまちを“使い倒す”施策で、就業者数は増加~
- ② 個人や企業が交流することで生まれるイノベーション・価値創造を徹底的に高める
 ~ここでしか得られない体験・出会いの充実。オンラインも活用し、ネットワークを拡大~
- ③ 働くだけでなく、プライベートな時間も充実させ、まちに多様な目的を用意する
- ④ 建物の低層部や公共空間を積極的にワークプレイスとして活用する
- ⑤ 安心・安全と Well Being（健康・快適・便利）を両立したサービス・新技術を拡大する

これらの施策を、まちの DX 化（デジタルトランスフォーメーション）、スマートシティ化と一体的に、エリアマネジメント・運営管理の高度化を通じて進め、ワークプレイスとしての価値向上と、健康、環境共生、文化等、時代変化に対応するアジャイル型で取り組み、まちを訪れる「価値」「意味」を提供します。

2. 多様なワークスタイル・ライフスタイルへの対応

センターオフィスにおける価値向上と同時に、住宅のワークプレイス化、どこでもオフィスになる「テレキューブ」の設置拡大、地方と都市の新たな関係を生み出し、新しい働き方を提案するワーケーション事業の推進等、三菱地所グループを挙げて、多様なワークスタイルを支える、トータルな価値提供を進めます。



オフィスが変わる

センターオフィス
「当社本社オフィス」
 より人と会いたくなるオフィス

フリースペース付オフィス
「CIRCLES シリーズ」
 自由な働き方の時代のオフィスの在り方

まちが変わる

センターオフィス
「Marunouchi Street Park」
 外部空間も活動の場

センターオフィス
「東京駅前常盤橋プロジェクト」
 日本を明るく元気にするまち

場所を問わず

個室型オフィス (テレキューブ)
「テレキューブ」
 場所と時を選ばずに働く

ワークション
「WORK x ation Site」
 都市と地方の新たな関係

住まう×働く

ワークプレイス付住宅
「コ・ワーキングラウンジ」
 変化に対応するレジデンス

住まい×テレワーク
「箱の間」
 マンション部屋内に働く空間を